

イヌマキ林分の施業に関する研究 (I)

—伝統的施業方法について—

沖縄県林業試験場 安里 練 雄

1. はじめに

イヌマキ (*Podocarpus macrophyllus* (Thunb.) D. Don) は、沖縄県地方では建築・家具用材として古くから造林の対象樹種とされてきたが、住宅建築様式の変化に伴ない、生産技術の改善が求められている。

本研究は、今日的生産目標に合った施業方法の改善を目的に実施しようとするものであるが、今回はそのための基礎資料の収集を目的に、伝統的住宅建築における材の用途及びそのための施業方法について調査したので、結果を報告する。

2. 調査方法

沖縄県地方で、現存する伝統的施業方法をとった林分はきわめて少なく、自給自足を目的とした零細規模の林分がわずかに存在するのみである。したがって、林分調査のみで従来の施業方法を明らかにすることは困難であろうと思われる。

そこで、本報告においては、石垣市大浜地区にあって、昭和16年に植栽された個人有林4ヶ所と、同じ取扱いを受けてきた20年生林分1ヶ所について毎木調査を行なうとともに、これら林分の所有者に過去の取扱いについての聞き調査を実施した。さらに、聞き調査における施業方法の確認と施業の根拠となった伝統的住宅建築における材の使われ方を明らかにするため、地方土族住宅(宮良殿内:約150年前建築:X)と、中流農家(図-2のD家,昭和26年建築:D),毎木調査対象林分(図-2のD)を主な材供給源として建築された零細農家(昭和30年建築:Y)において、使用材の規格等実態調査を行なった。

3. 伝統的住宅建築におけるイヌマキ材の用途

沖縄県地方における伝統的住宅の建築様式とされているものは、木造の赤カワラ葺であるが、粘土とシッケイでカワラを固定した重厚で低い屋根をもつ反面、通気性に富んだ開放的な造りの特徴としている。

イヌマキ材の主な用途と規格についての調査結果を要約すれば表-1に示すとおりである。角柱は4寸角の8尺材,シキイ,カモイ等は2×4寸,4寸角の8尺材,雨端柱は10cmの8尺丸太,タルキは7~8cmの

丸太が主体をなしている。これら以外にも床柱(磨丸太)やタンス等の家具材としての使用例は多い。なお表中の雨端柱,タルキの径は元口から1.1m付近での直径である。

表-1 イヌマキ材の主要用途と規格

使 途	住宅	規 格		D. B. H ^(寸)
		断面(径)	長さ	
角 柱	D.Y	4.0×4.0寸	8.0尺	21.2cm
	X	5.0×5.0	10.0	25.4
シキイ	Y	2.0×4.0寸	8.0尺	17.6cm
	D.X	4.0×4.0	9.0	21.2
カモイ 等	X	5.0×5.0	10.0	25.4
	(角柱) 雨端柱	Y	3.0×3.0寸	8.0尺
X		4.5×4.5	10.0	23.4
(丸太)	Y	9~11 cm	8 尺	
	D	10~13		
タルキ	Y	4~6 cm		
	D	5~8		
	X	7~12		

注) 角柱10尺材が採材可能な最小皮付胸高直径

4. 伝統的的林分施業方法

調査対象林分の毎木結果は図-1に示すとおりで、林分A, B, C, Dはいずれも37年生で、Eは20年生である。また各林分の聞き調査による密度管理状況を模式的に表わしたのが図-2である。これらの結果から、施業の特徴をあげると次のようである。

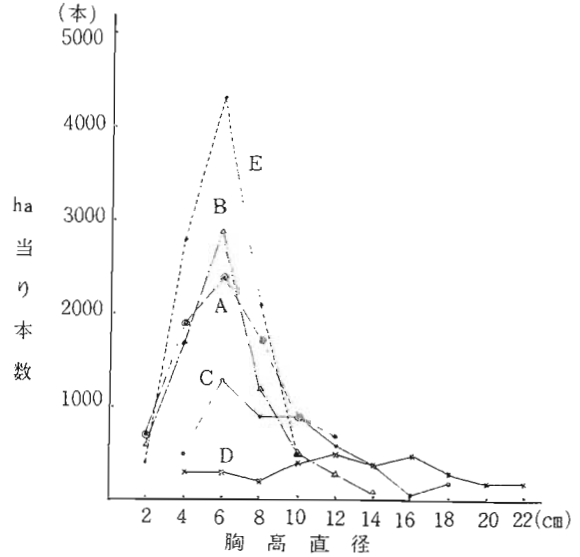
- 1) 植栽は50cm程度の苗木を用い、ha当り12,000~15,000本を基準とし、地形、苗木の供給量によっては、18,000本まで増して造林した。
- 2) 下刈は造林後2年間は年3回程度とし、以後5年までは年2回ほど実施した。
- 3) 除伐は一切行わず、つる切りは1~2年に1回程度、状況に応じて実施した。
- 4) 枝打は下刈、つる切り時に行ない、樹高が6m程度に達して2.5m枝打を最終とした。
- 5) 間伐はタルキ材生産を目的に利用径級に達したもから伐出した。15年生前後に第1回目を、以後3~5年毎に実施するのが普通であった。20年生頃か

ら雨端柱の生産が可能であったようである。

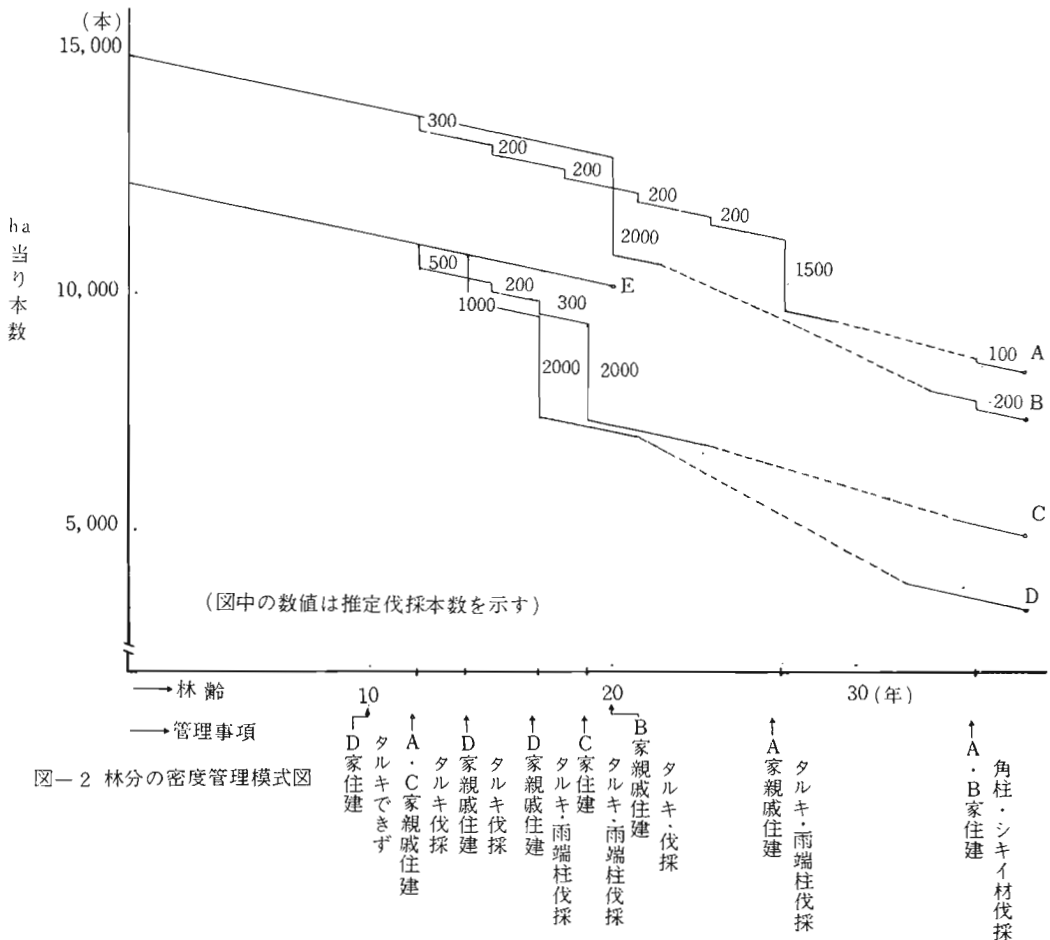
6) 主伐は40~50年生で皆伐とし、角柱、雨端柱タルキを生産する。

5. むすび

沖縄県地方でのイヌマキの伝統的施業の形態は、住宅建築様式に対応してタルキ、雨端柱、角柱を生産目的とするきわめて高密度林分施業に特徴がある。耐陰性で、比較的小さい樹冠を形成する特性を生かした施業といえる。しかし、タルキや雨端柱の需要が皆無となった現在では、つちかわれた技術を有効に生かしつつ、適切な生産目標の設定ならびにそのための効果的施業方法が検討されなければならないであろう。



図—1 調査林分の径級分布



図—2 林分の密度管理模式図